

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	小樽市さくら学園		
○保護者評価実施期間	令和7年3月24日		～ 令和7年3月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和7年3月24日		～ 令和7年3月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	並行通園をされる児童が増えていること。	それぞれの通園先とお子さんに関する情報交換に努めている。お互いの顔が分かる支援は、相談をしやすい関係となり、地域連携にもつながっていくと考えている。	並行通園について保護者から相談があった場合、保護者の意向に沿った支援を行い並行通園へつなげている。
2	小樽市は道央圏にあり、北海道立こども総合医療・療育センターなど高度な専門機関への通院が可能であること、また市内でも児童精神科の医師への受診や相談、専門職によるリハビリを受けるなどの環境が充実していること。	お子さんが通う医療機関の専門職の方々から提供される情報は客観的であり、支援を考える上で大きなヒントとなっている。また、お子さんが受けるリハビリの見学時や、関係者会議では直接的に支援に対するご意見をいただける機会となっている。	保護者の方から相談を受けた場合には積極的に医療へつなげ、正しい知識のもと、お子さんの療育に関われるようつとめていきたいと考えている。
3	園庭が広く、季節ごとの戸外活動を楽しむことができている。	園庭内の小さな花壇にトマトやピーマンなどを植えている。また、子ども達がすぐに手が届くところにブルーベリーの木があり、その場で食べることができるようになっており、食育を意識した取り組みを行っている。	植える野菜類に変化をつけたり、計画的に果樹を増やすなどを検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の古さについて、保護者の方からも職員からも指摘を受けていること。	建物の老朽化が進んでいるため。	施設の管理については、小樽市と相談をしながら修繕に取り組んでいます。令和7年度は、小樽市の長寿命化計画の中で優先順位を明らかにしながら改善に取り組んでいく予定である
2	並行通園をされるお子さんの送迎時間の設定の難しさ	認定こども園や保育園の送り出しや迎え入れの都合の良い時間帯が重なり合う	送迎先の認定こども園や保育園とさくら学園がそれぞれの事情に配慮をしながら、すり合わせていく
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 小樽市さくら学園

公表日 令和 7 年 3 月 31 日

利用児童
数

31名

回収数

27件

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない			
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	27				・小集団での活動の部屋や個別支援の部屋など活動に応じたスペースが用意されていて良いと思います。		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	22	3		1	・先生の数に対し子どもの人数の割合が多くなってしまった時に、様々な特性を持った子どもが多いので、大変だと思ふことがある。	配置基準の保育士、児童指導員に加えて加配の保育士、児童指導員を配置しています。日によっては職員数が少なく感じられる日もあるかと思いますが、職員間で連携を図りながらお子さんの安全に配慮していきます。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	26	1			・子ども達が楽しく自主性を持ちながら活動できるように工夫されていると感じます。特に、スケジュールや時間などのわかりやすい支援がされていると思います。 ・先生たちの工夫で子どもに配慮された部屋にはなっていますが、所々古い感じがします。先生たち、子どもたちが使いやすい気分が上がるよう新しくできたらと思います。	・建物の老朽化については、小樽市と協議をしながら対応をしていきます。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25		1	1	・降園後の清掃がきちんと丁寧にされていて素晴らしいです。 ・新しい幼稚園などを見ると、建物の古さが気になります。 ・清潔で温度も良い。		
適切な 支援 の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	27				子ども達の気持ちを理解しようと一緒に悩み考えてくれるのでとてもありがたいです。専門性のある支援ではあると思いますが、長期的に時間をかけて支援する内容については結果が見えなくて不安になることもあります。		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	27						
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	27					・優先順位を明確にし、親としても改めてできていないことを考えさせられる支援計画となっていて、わかりやすく目標がたてられているのでとても良いと思います。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26					どちらのことを示しているのかわかりません。（適切に設定されているとは思いますが、改めて説明、教えていただけると理解します。）	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	27					・行われていると思うのですが、本当に支援内容が達成されているのか？と疑問に思うこともあります。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	2			2	・出来ていないことを長期的に続けて行ってくれたりできるようにたまに支援してくれていると思います。できることはレベルを上げて取り組んでいただけるとありがたいです。	
11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	20	1		1	3	・学園にさくら幼稚園の子たちが活動しに来てくれたのですごいなと思いました。中々、そのような機会は難しいのかなと感じます。		

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	25				・契約時にとっても丁寧な説明がありました。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25				・とても丁寧に説明していただきわかりやすかったです。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	23	2			・親の会でペアレントメンターのお話を聞く機会はありませんでしたが、こどもへの関わり方を学ぶ会ではなかったように思います。研修会や情報提供の機会があったかどうかはあまり記憶に残っていませんでした。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25				・連絡ノートや電話などで、また会議でお話する場を設けていただいています。 ・担当の先生には本当に良くしてもらっていて、私が悩んでいることを一緒に考えてくれて、一緒に行動して下さり、子どものできるこゝろが増えました。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25				・忙しい中、お話しする機会を設けていただき家庭での様子など聞いてもらい支援していただいています。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25				・困りごとなども聞いていただけており、日々の活動の中でもネガティブなこともポジティブにとらえて伝えてくれるので大変ありがたいです。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	22	1		2	・親の会でも固定された方しか来ないので交流は難しいのかなと思います。運動会やおまつり会等できょうだいの子達も遊ぶ機会があったので良かったです。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22	3			・相談事があった時に、お話を聞いてもらえる環境にあると思います。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	24	1			・連絡ノートは有効活用でき、とても良いです。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	25	2			・連絡ノートや電話などで、また会議でお話する場を設けていただいています。 ・HP、SNSは活用されていないが、こまめに安心メールで連絡をしていただき助かっています。	
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25				2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	1	1	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24			3		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25	1		1		
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	27					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	27					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	26	1			・親子共に、安心して通わせて頂いています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	1			・午前中だけの療育ではなく幼稚園と同じように活動時間が設けられてとても感謝です。 ・こどもが楽しんで、行きたいと思ってくれるのが何よりです。その点に関しては大変満足しています。	

	公表	事業所における自己評価結果
--	----	---------------

事業所名	小樽市さくら学園		公表日	7 年 3 月 3 1 日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			・お子さんの特性に対応するためには、もう少し部屋数とスペースの広さがあればと思う。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		配置基準の児童指導員・保育士に加え加配の保育士・児童指導員を配置し支援の充実を図っている。配置数は適切であり、個別的な関りが必要なお子さんへの対応にも務めている。	・人数だけで見て良い時もあれば、その日のお子さんの状態などにも影響されるため、もう少し手厚い基準だと良いと思うことはある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚支援など児童の発達や障害特性に合わせた環境作りに配慮をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日、専門の業者による清掃を行っている。子ども達が遊ぶおもちゃの消毒による衛生管理を実施している。定員に対して広めの施設で広めの園庭と恵まれた環境となっている。	・清潔を保ち続けることに反省点がある。 ・雨漏りしやすい場所があることが気になっている。 ・収納の工夫で広く快適に使えるようにする改善の余地はあると思う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別で課題に取り組む部屋やクールダウンとして使用できる部屋、また急な体調不良時に避難的に使用する部屋を設けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		月2回の職員会議、責任者会議の開催に加え、必要に応じたクラス会議などの実施。児童発達支援計画作成と評価のための会議を実施する等、広く職員が参画している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者に日常の電話や連絡帳、個別の面談等による保護者の意向の把握に努めている。保護者の声は何よりも貴重な意見として受け止め、業務の改善に役立てるよう努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		月2回の職員会議、責任者会議の開催に加え、必要に応じたクラス会議などの実施や毎日療育後に行う振り返りにおいても、広く職員からの意見を把握することができる場となっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		対面開催の研修も増えているが、オンラインによる研修も積極的に活用し、職員の資質の向上に務めた。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		令和7年4月より公表する。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		児童の状態を丁寧に把握し、それに基づく児童発達支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当職員とのモニタリングに基づき計画を作成し、その後管理者やクラス職員全員による読み合わせを行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		施設独自のアセスメントを作成し、それに基づく児童発達支援計画を作成している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	季節ごとの活動、週ごとの活動プログラム(週案)の作成などにより、多様な活動ができるよう計画的に取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	出席確認、各クラスの活動内容や使用する場所の確認を行い、スムーズな療育が行われるよう詳細に確認を行っている。	・添乗の日は開始前に十分な打ち合わせはできていない。電話で必要最低限の確認はしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	○	療育後の16:30より行い、お子さんの様子(変化、成長など)や、送迎について振り返りを行い翌日に備えている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	担当職員を中心に、児童発達支援管理責任者など必要に応じて複数のスタッフが参加している。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	在籍児童31名中18名のお子さんが保育園、認定こども園、幼稚園との並行通園をされている。関係者会議の開催やお互いの園を見学し合う等、積極的に情報の共有に努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	直接の引継ぎ、書面による情報提供を組み合わせて。しっかりと情報共有できるように努力をしている。	・聞き手の方に正しく情報が伝わったかと感じる時がある。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○	児童が他の児童発達支援事業所を利用される時、保護者からのご希望時には見学の同行や引継ぎを行っている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		・研修には参加をしているが、専門家や専門機関からの助言など積極的に聞きたい。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	○		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	地域の幼稚園との交流保育に取り組み、お互いの園を訪問し合うことができている。	・1か所だけではなく、色々な園と交流を持つことができると良い。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	保護者と担当職員双方でアセスメントシートに記入をして、それを付け合わせる形で計画書の作成に当たっている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		半年ごとの定期的な面談に加え、日常的に連絡を取り合い、必要に応じた面談を行っている。	・対応することに努めている。
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		今年度は、親の会役員会を毎月、全大会（学習や交流の場）に於いては年10回の開催をすることができている。	
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		最も重要な配慮の一つと考え取り組んでいる。	
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月に一度のお便りの発行の他、安心メールを使用して情報をお伝えしている。	
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		入園児には個人情報の取り扱いに関しては保護者に説明をしている。職員にも十分注意するよう会議などを通じて周知徹底に努めている。	
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・今後、少しずつ取り組んでいきたいと考えている。
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			・入園日の親の会総会の中で置き場所などの説明を行なっているが、説明が1度きりであることと、設置場所をもっと目につきやすい場所に変更したいと考える。 ・まだ、やり慣れていない。
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		こどもの安全のために必ず確認しなければならない基本情報として提供いただいている。	
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		給食・おやつを提供するため、必ずアレルギーについては把握し、医師の指示に基づく対応をしている。	・医師の指示書の提出はなく、受診後などに保護者から情報を聞き取る形となっている。
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人内研修や外部研修への参加、また毎月2回行っているケース検討や虐待防止に関する会議を通して、自分たちの支援の振り返りを行うなど虐待に対する意識を高めることに努めている。	
53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○				